

90歳でひとり暮らしのYさんとの出会いは…

ならやま診療所師長 保高芳子さん・看護主任 中川真妃留さん



平城第二団地 (1977年入居開始)

おんぶ
息子が
できず
を昇降
が階段
も多い
戸建て
る・一
しくな
が荒々
の感情
家族間
うちに
暮らし
暮らす
として
大家族
大家族
としてみ
る・一
しくな
が荒々
の感情
家族間
うちに
暮らし
暮らす
として
大家族
大家族
としてみ

おんぶ
息子が
できず
を昇降
が階段
も多い
戸建て
る・一
しくな
が荒々
の感情
家族間
うちに
暮らし
暮らす
として
大家族
大家族
としてみ
る・一
しくな
が荒々
の感情
家族間
うちに
暮らし
暮らす
として
大家族
大家族
としてみ



生きる力と
向きあつて
現場通信17

90歳で一人暮らしのYさんとの出会いは、ならやま診療所通院患者さんからの連絡でした。「団地内で転倒しているのが発見され、心配だから往診を！」とのこと。何となく、血圧は200以上・心不全の所見もある。至急入院治療を！とすめたが、「絶対に嫌！いつ死んでもよい」と拒否されました。

名古屋に住む息子夫妻と連絡を取り、Yさんの意思を尊重して自宅療養となりました。ケアマネジャーに介入してもらい、要介護認定の申請から依頼しました。4回目の往診

日に自宅で転倒。下肢の痛みで動けず、トイレにも行けません。それでも入院は断固拒否。翌日、Yさんが「入院してもよいかな？」と言っている、と連絡があり、訪問看護の協力を得てようやく入院となりました。このように、開発40年近くとなる高の原地区は、典型的な高齢化地域となってきました。例えば、独居で転倒を繰り返す方・老夫婦ふたり暮らしでどちらかが認知症又、夫婦共に病気で動けなくなる・子供が希望して両親を呼び同居しても、



診療所スタッフと(後列中央が保高師長、前列右が中川主任)

昭和の奈良大和路、入江泰吉の本を見た。昭和20〜30年ごろの奈良の農村風景は何か魅



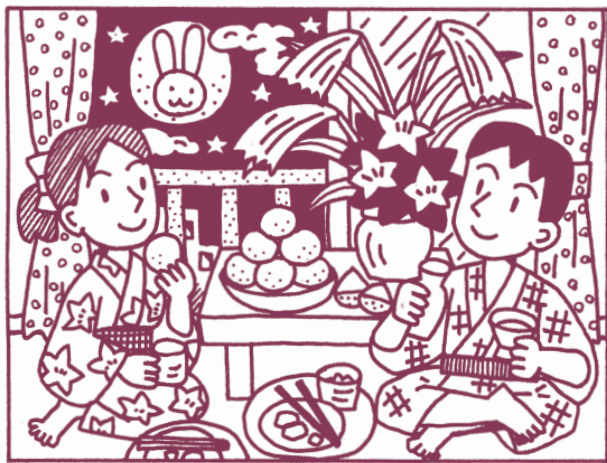
昭和の奈良大和路、入江泰吉の本を見た。昭和20〜30年ごろの奈良の農村風景は何か魅

下の絵は上と7カ所のまちがいがいがあります。どこでしょう。(印刷のよごれやかすれ、スクリーントーンの濃淡はまちがいはいいりません)

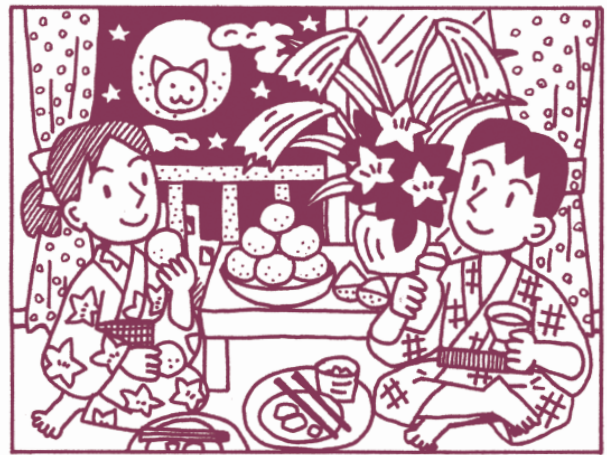
まちがいがし

10名の方に

正解者の中から図書カード(500円)を進呈



まちがいは7つ



昭和の奈良大和路、入江泰吉の本を見た。昭和20〜30年ごろの奈良の農村風景は何か魅

昭和の奈良大和路、入江泰吉の本を見た。昭和20〜30年ごろの奈良の農村風景は何か魅

下の絵は上と7カ所のまちがいがいがあります。どこでしょう。(印刷のよごれやかすれ、スクリーントーンの濃淡はまちがいはいいりません)

『友の会だより』

『友の会だより』

『友の会だより』

『友の会だより』

『友の会だより』

『友の会だより』

『友の会だより』

『友の会だより』

『友の会だより』

『友の会だより』

『友の会だより』

『友の会だより』

『友の会だより』